

口永良部島の噴火に係る関係省庁災害警戒会議

議 事 次 第

日時：平成26年8月4日（月）

台風12号等に係る災害警戒会議終了後

場所：合同庁舎8号館3階 災害対策本部会議室

1. 口永良部島の今後の活動の見通しについて
2. 各省庁の対応状況について
3. その他

報道発表資料
平成26年8月3日
気象庁

8月3日に発生した^{くちのえらぶじま}口永良部島の噴火活動について

—口永良部島の噴火警戒レベルを3（入山規制）へ引き上げ—

口永良部島（鹿児島県屋久島町）では、本日（3日）12時24分に新岳付近で噴火が発生しました。遠望カメラでは、灰色の噴煙が火口縁上800m以上上がりました。噴火が発生したのは1980年9月以来です。

火山活動が高まっていることから、本日（3日）12時50分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（平常）から3（入山規制）に引き上げました。口永良部島で噴火警戒レベルを3に引き上げたのは平成20年（2008年）10月27日以来です。

新岳火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石等に警戒が必要です。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されるため注意が必要です。

降雨時には土石流に注意してください。

本件担当 地震火山部火山課 03-3284-1749（直通）

火山名 口永良部島 噴火警報(火口周辺)
平成26年8月3日12時50分 福岡管区気象台・鹿児島地方気象台

** (見出し) **

<口永良部島に火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)を発表>
火口から概ね2kmの範囲では噴火(大きな噴石)に警戒をしてください

<噴火警戒レベルを1(平常)から3(入山規制)に引き上げ>

** (本文) **

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

口永良部島では、本日(3日)12時24分に噴火が発生しました。
今後、噴火活動がさらに活発となる可能性があり、火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火の発生が予想されますので、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

2. 対象市町村等

以下の市町村では、火口周辺で入山規制などの警戒をしてください。
鹿児島県：屋久島町

3. 防災上の警戒事項等

火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。
風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

<噴火警戒レベルを1(平常)から3(入山規制)に引き上げ>

** (参考：噴火警戒レベルの説明) **

- 【レベル5(避難)】：危険な居住地域からの避難等が必要。
 - 【レベル4(避難準備)】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、災害時要援護者の避難等が必要。
 - 【レベル3(入山規制)】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて災害時要援護者の避難準備等。
 - 【レベル2(火口周辺規制)】：火口周辺への立入規制等。
 - 【レベル1(平常)】：状況に応じて火口内への立入規制等。
- (注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる)

火山名 口永良部島 火山の状況に関する解説情報 第1号
平成26年8月3日14時30分 福岡管区気象台・鹿児島地方気象台

** (本文) **

<火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)が継続>

1. 火山活動の状況

口永良部島では、本日(3日)12時24分に新岳付近で噴火が発生しました。新岳で噴火が発生したのは1980年9月以来です。遠望カメラでは、灰色の噴煙が火口縁上800m以上上がりました。

この噴火に伴い振幅の大きな微動が発生しました。新岳火口から北東約2kmに設置している新岳北東山麓観測点で最大振幅769マイクロメートル/秒(南北動)を観測しました。微動の継続時間は6分30秒でした。また、同観測点で17.2パスカルの空振を観測しました。噴火発生前後の地震及び微動は少ない状況が続いています。

噴火等の状況については、詳細が分かり次第お知らせします。

2. 防災上の警戒事項等

火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

火山活動の状況に変化があった場合には、随時お知らせします。

<火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)が継続>

口永良部島の火山活動解説資料

福岡管区気象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方気象台

＜噴火警戒レベルを1（平常）から3（入山規制）に引き上げ＞

口永良部島では、本日（3日）12時24分頃、新岳付近で噴火が発生し、灰色の噴煙が火口縁上800m以上まで上がり北に流れました。

このため、口永良部島の火山活動が高まっていると判断し、本日（3日）12時50分に火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を発表し、噴火警戒レベルを1（平常）から3（入山規制）に引き上げました。

火山性地震や微動等の状況や傾斜変動の状況より、今後同程度の噴火が再び発生する恐れがあります。

【防災上の警戒事項等】

新岳火口から概ね2kmの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

○ 活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図1、図3-①）

口永良部島では、本日（3日）12時24分頃、新岳付近で噴火が発生し、灰色の噴煙が火口縁上800m以上まで上がり北に流れましたが、一部は南に流れました。新岳で噴火が発生したのは1980年9月以来です。

・地震活動（図2、図3-②、③）

12時24分頃の噴火に伴い振幅の大きな微動が発生しました。新岳火口から北東約2kmに設置している新岳北東山麓観測点で最大振幅769マイクロメートル/秒（南北動）を観測しました。微動の継続時間は6分30秒でした。また、同観測点では17.2パスカルの空振を観測しました。

噴火発生前後の地震及び微動は少ない状況が続いています。

・地殻変動（図4）

12時24分頃の噴火に伴い新岳北東山麓観測点の傾斜計で山体が沈降する変動を観測しました。その後特段の変化は認められません。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『基盤地図情報（縮尺レベル25000）』を使用しています（承認番号：平23情使、第467号）。

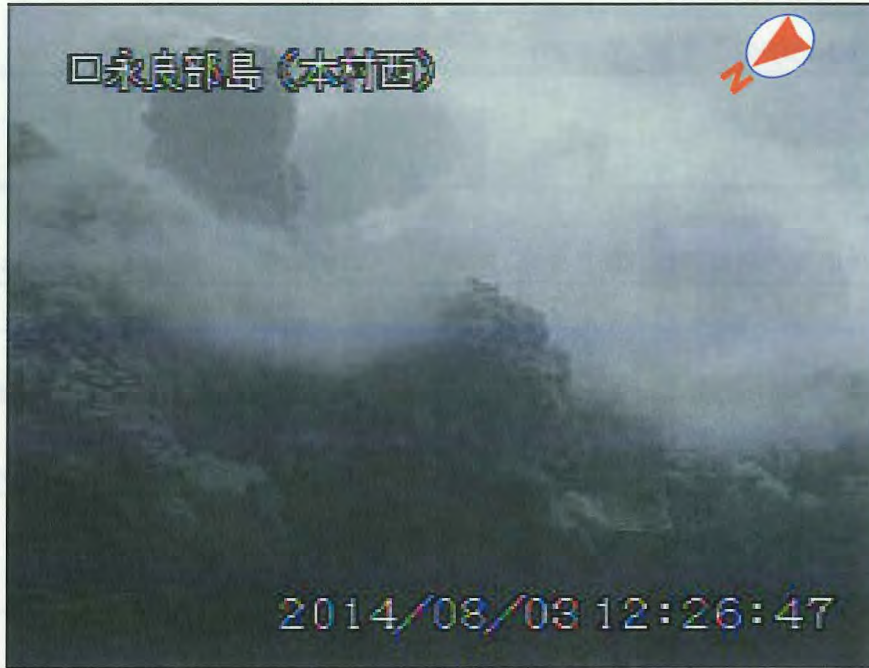


図 1 口永良部島 噴火の状況（8月3日12時26分、本村西遠望カメラによる）
灰色の噴煙が火口縁上 800m 以上まで上がり北に流れましたが、一部は南に流れました。

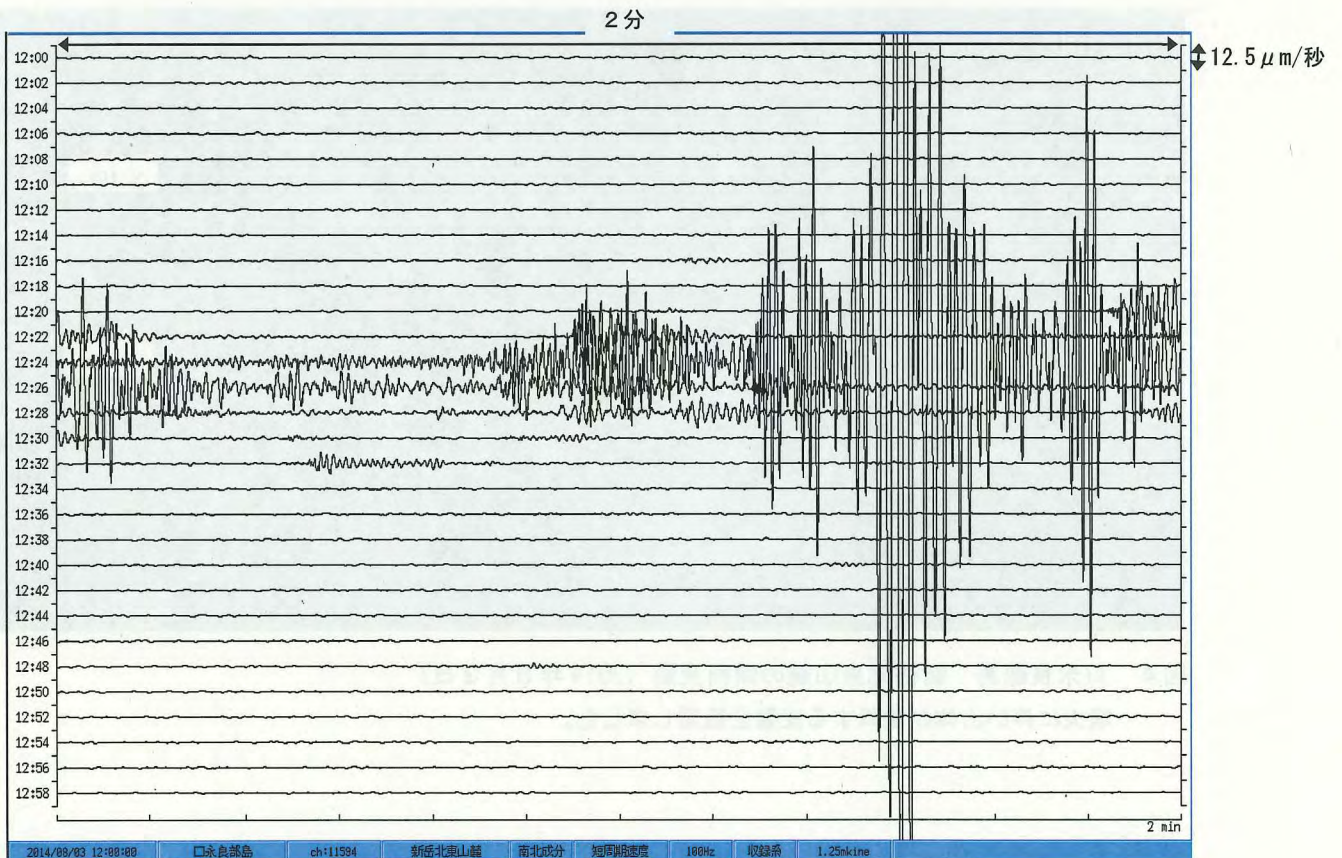


図 2 口永良部島 微動の状況（8月3日12時00分～13時00分）
12時24分頃の噴火に伴い振幅の大きな微動が発生しました。新岳火口から北東約2kmに設置している新岳北東山麓観測点で最大振幅769マイクロメートル/秒（南北動）を観測しました。微動の継続時間は6分30秒でした。

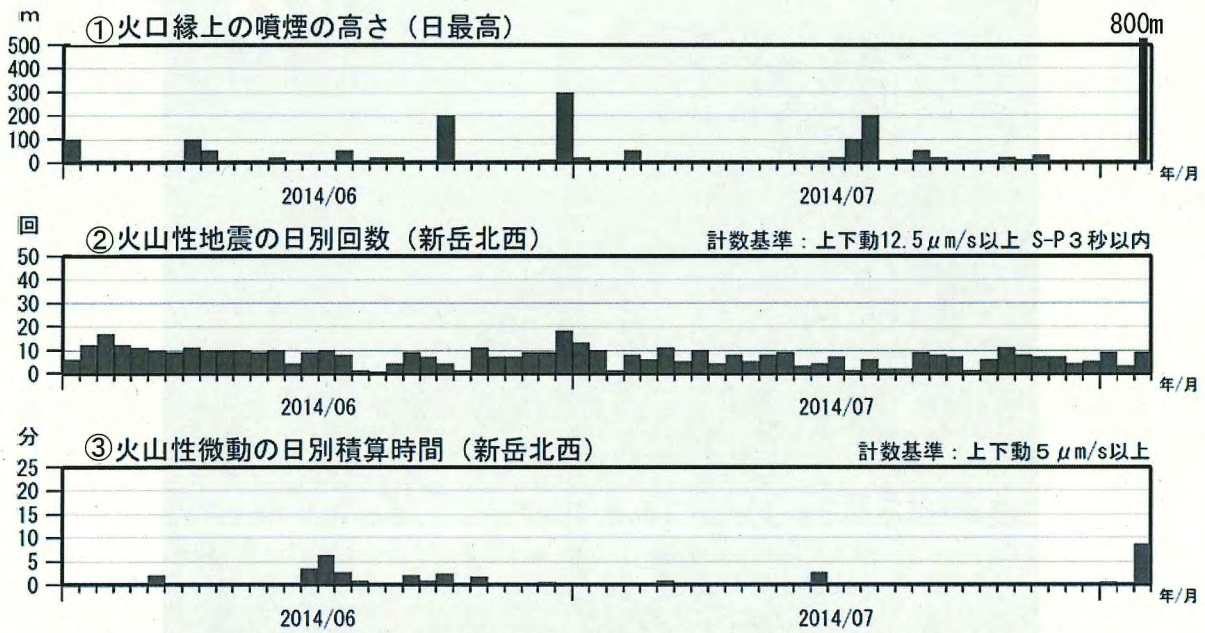


図3 口永良部島 火山性地震・微動の経過図（2014年6月1日～2014年8月3日）
火山性地震、火山性微動は少ない状態でした。

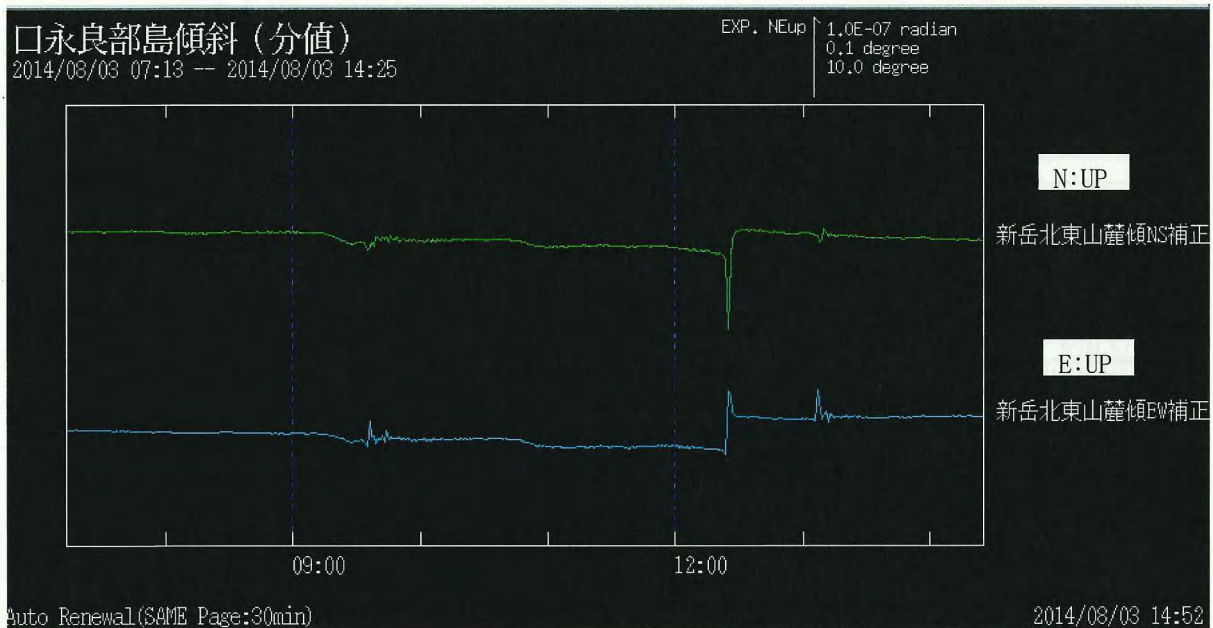


図4 口永良部島 新岳北東山麓の傾斜変動（2014年8月3日）
噴火に伴い山体が沈降する変動を観測しました。

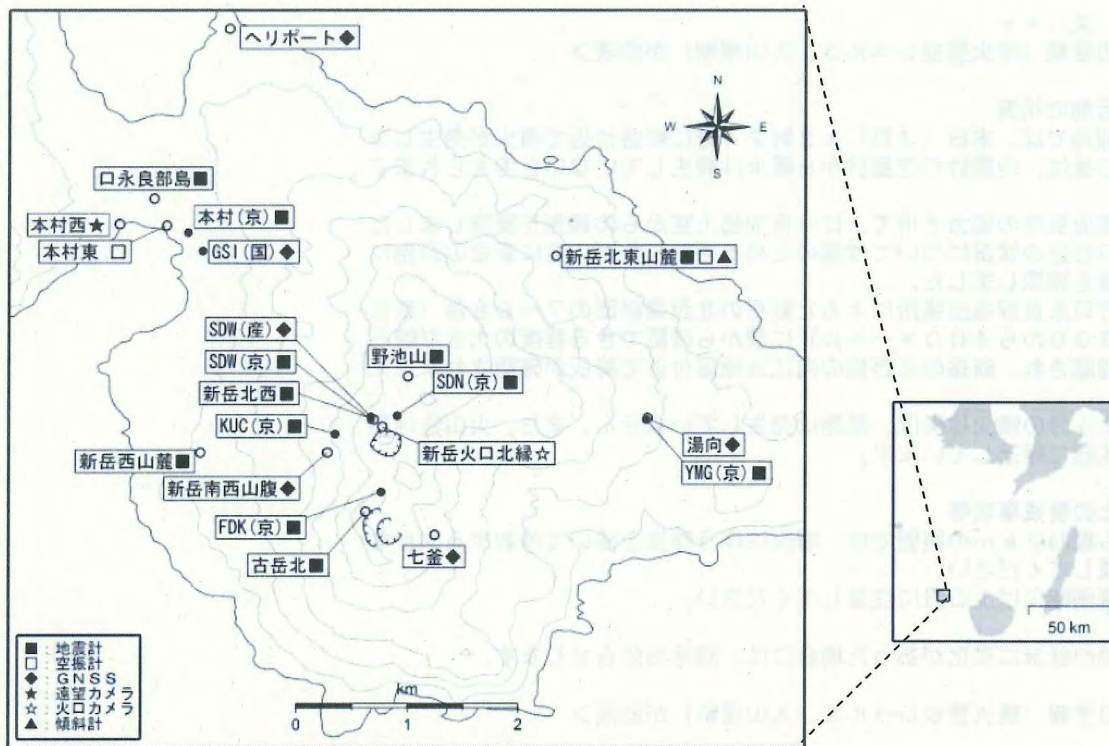


図5 口永良部島 観測点配置図

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は他機関の観測点位置を示しています。
(国)：国土地理院、(京)：京都大学、(産)：産業技術総合研究所

火山名 口永良部島 火山の状況に関する解説情報 第2号
平成26年8月3日20時00分 福岡管区気象台・鹿児島地方気象台

(本文)

<火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)が継続>

1. 火山活動の状況

口永良部島では、本日(3日)12時24分に新岳付近で噴火が発生しました。その後は、地震計や空振計から噴火は発生していないと考えられます。

本日、鹿児島県の協力を得て、口永良部島上空からの観測を実施しました。新岳火口付近の状況については雲のため不明でしたが、主に新岳の西側に降灰の痕跡を確認しました。

屋久島町口永良部島出張所によると新岳の北西側斜面の7~8合目(新岳火口より300から400メートル)に麓から確認できる程度の大きな噴石の飛散が確認され、新岳の北西側の向江浜地区付近で降灰が確認されました。

12時24分の噴火以降は、微動は発生していません。また、火山性地震は少ない状態で経過しています。

2. 防災上の警戒事項等

火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

また、降雨時には土石流に注意してください。

火山活動の状況に変化があった場合には、随時お知らせします。

<火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)が継続>

口永良部島の噴火警戒レベル

— 火山災害から身を守るために —

噴火警報等で発表する噴火警戒レベル

- 噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1から5の5段階に区分したものです。
- 各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとるべき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています(レベル5は「避難」、レベル4は「避難準備」、レベル3は「入山規制」、レベル2は「火口周辺規制」、レベル1は「平常」)。
- 対象となる火山が噴火警戒レベルのどの段階にあるかは、噴火警報等でお伝えします。



口永良部島 南側上空から撮影 第十管区海上保安部の協力による

口永良部島 噴火警戒レベルに対応した規制範囲



この図は、国土地理院発行の2万5千分の1地図画像、数値地図50mメッシュ(標高)およびカシミール3Dを使用して作成しています。

●噴火警戒レベルに応じて下記のような防災対応が必要になります。

- レベル5(避難)：危険な居住地域からの避難
- レベル4(避難準備)：警戒が必要な居住地域での避難準備。要援護者は避難等。
- レベル3(入山規制)：火口から概ね2km以内の立入禁止 ○の範囲内
- レベル2(火口周辺規制)：火口から概ね1km以内の立入禁止 ○の範囲内
- レベル1(平常)：状況に応じて火口内への立入規制等。

- : 一般道
- : 登山道
- : 新岳火口
- : 居住区域
- : レベル3の規制箇所
- : レベル2の規制箇所

■この図は口永良部島防災情報図(鹿児島県地域防災計画)を元に屋久島町等と調整して作成しています。

■各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、詳細については屋久島町にお問い合わせください。



問い合わせ先

福岡管区气象台 火山監視・情報センター
 TEL : 092-725-3606 <http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>
 ■鹿児島地方气象台 観測予報課 TEL : 099-250-9916
<http://www.jma-net.go.jp/kagoshima/>



口永良部島の噴火警戒レベル

予報 警報	対象 範囲	レベル (キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山 者・入山者等への対応	想定される現象等
噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●噴火が発生し、噴石や火砕流、溶岩流が居住地域に到達、あるいはそのような噴火の発生が切迫している。 過去事例 1966年11月：噴石が火口から約3.5kmまで飛散
		4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での避難の準備、災害時要援護者の避難等が必要。	●噴火が拡大し、噴石や火砕流、溶岩流が居住地域に到達することが予想される。 過去事例 1931年4月：新岳火口から約2kmまで噴石飛散 1841年8月：新岳火口から約2kmまで噴石飛散
火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常的生活。状況に応じて災害時要援護者の避難準備等。登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。	●噴石が火口から概ね2km以内に飛散、あるいは小噴火の拡大等により飛散が予想される。 過去事例 1968年12月～1969年3月：噴石飛散 1945年11月、1933年12月：新岳で割れ目噴火、火口から約1.9kmまで噴石飛散
	火口周辺	2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常的生活。火口周辺への立入規制等。	●小噴火が発生し、火口から概ね1km以内に噴石飛散。 1980年9月の噴火事例 新岳で割れ目噴火、火口から約700mまで噴石飛散 ●小噴火の発生が予想される。 過去事例 2006年9月の山体膨張 1996年3月、1999年8月、2000年1月、2003年2～4月の火山性地震増加 1932年7月：噴煙活動活発化
噴火予報	火口内等	1 (平常)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	状況に応じて火口内への立入規制等。	●火山活動は静穏、状況により火口内に影響する程度の噴出の可能性あり。 過去事例 2003年11月～2004年1月の状態

注) ここでいう噴石とは、主として風の影響を受けずに飛散する大きさのものとする。
各レベルにおける具体的な規制範囲等については地域防災計画等で定められています。各市町村にお問い合わせください。

■最新の噴火警戒レベルは気象庁HPでもご覧になれます。
<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>

口永良部島の噴火による被害状況等について

※ これは速報であり、数値等は今後も変わることがある。

平成26年8月3日
18時00分現在
内閣府

1. 火山活動の状況(気象庁情報:8月3日16:30現在)

(1)これまでの状況

口永良部島(鹿児島県屋久島町)では、8月3日12時24分に新岳付近で噴火が発生した。遠望カメラでは、灰色の噴煙が火口縁上800m以上上がった。噴火が発生したのは1980年9月以来。

火山活動が高まっていることから、気象庁は3日12時50分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベル1(平常)から3(入山規制)に引き上げた。口永良部島で噴火警戒レベルを3に引き上げたのは平成20年(2008年)10月27日以来。

(2)今後の見通し

新岳火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴火等に警戒が必要。風下側では、火山灰だけでなく、小さな噴石が遠方まで風に流されるため注意が必要。降雨時には土石流に注意が必要。

2. 人的・住家被害の状況(消防庁調べ:8月3日 16:30現在)

(1)人的被害

被害情報なし

(2)住家被害

被害情報なし

3. 避難の状況

(1)避難指示・勧告等(消防庁調べ:8月3日 16:30現在)

屋久島町が避難準備情報発令【77世帯135名】(8月3日13:00)

(2)自主避難(消防庁調べ:8月3日 16:30現在)

91名(避難所:金岳小体育館及び保健福祉館)

4. 政府の主な対応

(1)関係省庁災害警戒会議等の開催

口永良部島の噴火に係る関係省庁災害警戒会議を開催予定。(8月4日10:00)

(2)各府省庁の対応

①内閣府の対応

・情報連絡室を設置(8月3日12:50)

②気象庁の対応

・火口周辺警報を発表。噴火警戒レベルを1(平常)から3(入山規制)に引き上げ。

(8月3日12:50)